

## 令和8年度(第65回)農林水産祭天皇杯等の選賞について

### ～農林水産祭天皇杯等三賞受賞者が決定!～

- 農林水産祭は昭和37年から実施し、今年で65回目の開催。
- 天皇杯、内閣総理大臣賞及び日本農林漁業振興会会長賞は、農林水産大臣賞を受賞した全国各地の優秀な農林水産業者442点の中から決定。

農林水産祭中央審査委員会(会長 伊藤 房雄氏)において、令和8年度(第65回)農林水産祭の天皇杯受賞者、内閣総理大臣賞受賞者、日本農林漁業振興会会長賞受賞者が決定されました。

### 1.概要

天皇杯、内閣総理大臣賞及び日本農林漁業振興会会長賞は、過去1年間(令和7年7月から令和8年6月まで)の農林水産祭(※)参加表彰行事(271件)において、農林水産大臣賞を受賞した442点の中から決定されたものです。各賞は、農産・蚕糸部門、園芸部門、畜産部門、林産部門、水産部門、多角化経営部門、むらづくり部門の7部門に授与されます。また、女性の活躍が著しい2点に対して、内閣総理大臣賞と日本農林漁業振興会会長賞が授与されます。

(※)農林水産祭：国民の農林水産業と食に対する認識を深めるとともに、農林水産業者の技術改善及び経営発展の意欲を高めるため、農林水産省と公益財団法人日本農林漁業振興会の共催により昭和37年から実施しています。

### 2.表彰

表彰は、勤労感謝の日の11月23日(月曜日)11時40分から明治神宮会館で開催する農林水産祭式典において行われます。

〈添付資料〉

- (別添1) 令和8年度(第65回)農林水産祭天皇杯等受賞者一覧(PDF : 223KB)
- (別添2) 令和8年度天皇杯受賞者受賞理由概要(PDF : 911KB)
- (別添3) 令和8年度内閣総理大臣賞受賞者受賞理由概要(PDF : 810KB)
- (別添4) 令和8年度日本農林漁業振興会会長賞受賞者受賞理由概要(PDF : 810KB)
- (別添5) 令和8年度内閣総理大臣賞受賞者受賞理由概要 女性の活躍(PDF : 599KB)
- (別添6) 令和8年度日本農林漁業振興会会長賞受賞者受賞理由概要 女性の活躍(PDF : 600KB)

### お問合せ先

大臣官房文書課

担当者：総務班

代表：03-3502-8111(内線3055)

ダイヤルイン：03-3502-8040

公益財団法人日本農林漁業振興会

担当者：事業部

代表：03-6441-0791

(農産・蚕糸部門)

農産局穀物課

担当者：企画班

代表：03-3502-8111（内線4846）

ダイヤルイン：03-3502-5965

農産局果樹・茶グループ

担当者：地域作物第2班

代表：03-3502-8111（内線4996）

ダイヤルイン：03-6744-2512

(園芸部門)

農産局園芸作物課

担当者：園芸生産第2班、花き振興第1班

代表：03-3502-8111（内線4832）

ダイヤルイン：03-3502-8504

農産局果樹・茶グループ

担当者：果樹振興班

代表：03-3502-8111（内線4793）

ダイヤルイン：03-3502-5957

(畜産部門)

畜産局畜産振興課

担当者：総務班

代表：03-3502-8111（内線4922）

ダイヤルイン：03-6744-2524

(林産部門)

林野庁森林整備部研究指導課

担当者：普及教育班

代表：03-3502-8111（内線6210）

ダイヤルイン：03-3502-5721

(水産部門)

水産庁増殖推進部研究指導課

担当者：普及育成班

代表：03-3502-8111（内線6779）

ダイヤルイン：03-6744-2374

(多角化経営部門)

経営局経営政策課

担当者：法人育成班

代表：03-3502-8111（内線5140）

ダイヤルイン：03-3502-6441

(むらづくり部門)

農村振興局農村政策部農村計画課

担当者：農村整備推進班

代表：03-3502-8111（内線5449）

ダイヤルイン：03-3502-6001

(女性の活躍)

経営局就農・女性課女性活躍推進室  
担当者：経営支援班  
代表：03-3502-8111（内線5194）  
ダイヤルイン：03-3502-6600

## 令和 8 年度(第65回)農林水産祭天皇杯等受賞者一覧

## 1 天皇杯

| 部 門   | 出品財                   | 受 賞 者                           |                                                                                 | 表彰行事                   |
|-------|-----------------------|---------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------|------------------------|
|       |                       | 住 所                             | 氏 名 等                                                                           |                        |
| 農産・蚕糸 | 経 営<br>(水稻、トマト、チンゲン菜) | 新潟県新潟市<br><small>にいがたし</small>  | 農事組合法人濁川生産組合<br><small>にごりかわ</small><br>(代表 田村 雄太郎)<br><small>たむら ゆうたろう</small> | 第55回日本農業賞              |
| 園 芸   | 産 物<br>(洋蘭)           | 埼玉県本庄市<br><small>ほんじょうし</small> | 株式会社モテギ洋蘭園<br>(代表 茂木 敏彦)<br><small>もてぎ としひこ</small>                             | 2025年度全国洋らん品評会         |
| 畜 産   | 経 営<br>(採卵鶏)          | 大分県竹田市<br><small>たけたし</small>   | 有限会社<br>グリーンファーム久住<br>(代表 荒牧 大貴)<br><small>あらまき たいき</small>                     | 令和 7 年度全国優良畜産経営管理技術発表会 |
| 林 産   | 産 物<br>(乾しいたけ)        | 熊本県菊池市<br><small>きくちし</small>   | 石原 敬*<br><small>いしはら けい</small><br>石原 裕*<br><small>いしはら ゆう</small>              | 第72回全国乾椎茸品評会           |
| 水 産   | 経 営<br>(漁業経営改善)       | 鹿児島県垂水市<br><small>たるみずし</small> | 有限会社田村水産<br>(代表 田村 洋平)<br><small>たむら とうへい</small>                               | 第31回全国青年・女性漁業者交流大会     |
| 多角化経営 | 経 営<br>(ベビーリーフほか)     | 福井県福井市<br><small>ふくいし</small>   | 株式会社農園たや<br>(代表 田谷 徹)<br><small>た や とおる</small>                                 | 第55回日本農業賞              |
| むらづくり | むらづくり活動               | 岐阜県郡上市<br><small>ぐじょうし</small>  | 六ノ里自治会<br>(代表 集山 政治)<br><small>ろくのり あつめやま まさはる</small>                          | 第48回豊かなむらづくり全国表彰事業     |

(注)氏名等の欄に \* を付したのは、夫婦連名で表彰するもの。

## 2 内閣総理大臣賞

| 部 門   | 出品財                 | 受 賞 者                 |                                                         | 表彰行事                |
|-------|---------------------|-----------------------|---------------------------------------------------------|---------------------|
|       |                     | 住 所                   | 氏 名 等                                                   |                     |
| 農産・蚕糸 | 経 営<br>(茶)          | 鹿児島県志布志市<br>しぶしし      | 合同会社さかもと<br>(代表 さかもと 坂元 修一郎)                            | 第55回日本農業賞           |
| 園 芸   | 経 営<br>(なし、ぶどう、いちご) | 福岡県久留米市<br>くるめし       | 株式会社フルトリエ<br>(代表 なかむら 中村 美紗)                            | 第27回全国果樹技術・経営コンクール  |
| 畜 産   | 技術・ほ場<br>(永年牧草)     | 北海道野付郡<br>べつかいちょう 別海町 | ちかつ 近津 義尊*<br>ちかつ 近津 さわこ 佐和子*                           | 第12回全国自給飼料生産コンクール   |
| 林 産   | 経 営<br>(林業経営)       | 大分県佐伯市<br>さいきし        | さいき 佐伯広域森林組合<br>(代表 とだか 戸高 壽生)                          | 全国林業経営推奨行事          |
| 水 産   | 経 営<br>(流通・消費拡大)    | 石川県小松市<br>こまつし        | 石川県漁業協同組合<br>こまつ 小松支所 みなと 港 の直売所<br>(代表 なかじま 中島 むつみ 睦美) | 第31回全国青年・女性漁業者交流大会  |
| 多角化経営 | 経 営<br>(さくらんぼ)      | 山形県天童市<br>てんどうし       | 株式会社<br>やまがたさくらんぼファーム<br>(代表 やはぎ 矢萩 よしとも 美智)            | 令和7年度山形県ベストアグリ賞     |
| むらづくり | むらづくり<br>活動         | 京都府福知山市<br>ふくちやまし     | けはら たなだ 毛原の棚田ワンダービレッジプロジェクト<br>(代表 みずぐち 水口 かずや 一也)      | 第48回豊かななむらづくり全国表彰事業 |

(注)氏名等の欄に \* を付したのは、夫婦連名で表彰するもの。

### 3 日本農林漁業振興会会長賞

| 部 門   | 出品財               | 受 賞 者                           |                                                     | 表彰行事                 |
|-------|-------------------|---------------------------------|-----------------------------------------------------|----------------------|
|       |                   | 住 所                             | 氏 名 等                                               |                      |
| 農産・蚕糸 | 経 営<br>(茶、大麦若葉、桑) | 鹿児島県日置市<br>ひおきし                 | 株式会社春日園川路製茶<br>かすがえんかわじせいちゃ<br>(代表 川路 到<br>かわじ いたる) | 令和7年度全国優良経営体表彰       |
| 園 芸   | 経 営<br>(りんご)      | 青森県平川市<br>ひらかわし                 | 株式会社釈迦のりんご園<br>しやか<br>(代表 工藤 秀明<br>くどう ひであき)        | 第27回全国果樹技術・経営コンクール   |
| 畜 産   | 経 営<br>(肉用牛一貫)    | 山梨県北杜市<br>ほくとし                  | 原 廣一*<br>ひろかず<br>原 奈美*<br>はら なみ                     | 令和7年度全国優良畜産経営管理技術発表会 |
| 林 産   | 技術・ほ場<br>(製材技術)   | 富山県氷見市<br>ひみし                   | 岸田木材株式会社<br>きしだもくざい<br>(代表 岸田 真志<br>きしだ まさし)        | 令和7年度日本製材技術賞         |
| 水 産   | 産 物<br>(水産加工品)    | 福島県相馬市<br>そうまし                  | 株式会社マルリフーズ<br>いなる<br>(代表 稲村 利公<br>としひろ)             | 第36回全国水産加工品総合品質審査会   |
| 多角化経営 | 経 営<br>(木頭ゆず)     | 徳島県那賀郡<br>なかぐん<br>那賀町<br>なかつちやう | 株式会社黄金の村<br>おうごん<br>(代表 藤田 恭嗣<br>ふじた やすし)           | 令和7年度輸出に取り組む優良事業者表彰  |
| むらづくり | むらづくり<br>活動       | 熊本県天草市<br>あまくさし                 | 農事組合法人宮地岳営農組合<br>みやじだけ<br>(代表 田中 大地<br>たなか だいち)     | 第48回豊かなむらづくり全国表彰事業   |

(注)氏名等の欄に \* を付したのは、夫婦連名で表彰するもの。

4 女性の活躍

(1) 内閣総理大臣賞

| 部 門   | 出品財   | 受 賞 者              |                 | 表彰行事                    |
|-------|-------|--------------------|-----------------|-------------------------|
|       |       | 住 所                | 氏 名 等           |                         |
| 女性の活躍 | 女性の活躍 | とんだばやしし<br>大阪府富田林市 | いぬい ゆ か<br>乾 裕佳 | 令和7年度農<br>山漁村女性活<br>躍表彰 |

(2) 日本農林漁業振興会会長賞

| 部 門 | 出品財   | 受 賞 者           |                                     | 表彰行事                       |
|-----|-------|-----------------|-------------------------------------|----------------------------|
|     |       | 住 所             | 氏 名 等                               |                            |
| 園 芸 | 女性の活躍 | くるめし<br>福岡県久留米市 | 株式会社フルトリエ<br>(代表 なかむら み さ<br>中村 美紗) | 第27回全国果<br>樹技術・経営<br>コンクール |

令和 8 年度天皇杯受賞者受賞理由概要  
農産・蚕糸部門

人を育て、地域の農地を守る ～複合・多角化で拓く持続的发展～

○氏名又は名称 農事組合法人 濁川生産組合（代表 田村 雄太郎）

○所 在 地 新潟県新潟市

○出 品 財 経営（水稻・トマト・チンゲン菜）

○受賞理由

・地域の概要

新潟市は新潟県の北東部に位置し、米の産出額で全国第 1 位を誇る。農事組合法人濁川生産組合が所在する北区濁川地区は、阿賀野川の河口付近に位置し、阿賀野川と新井郷川に挟まれた肥沃な土地が広がる。水利に恵まれ、古くから水稻とトマトをはじめとする施設園芸を組み合わせた営農が行われている。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

同組合は平成元年に約 15ha で設立された。現代表が就任した平成 28 年に 52.1ha であった水稻作付面積は、令和 6 年には 84.3ha へと拡大し、経営面積は 92.6ha に達した。水稻を中心に、トマト等の施設園芸や農閑期の加工もちを組み合わせた複合経営を展開し、年間を通じた安定的な雇用環境を実現するとともに、業務用実需者との事前販売契約や複数の販路確保等を通じた有利販売により、堅実で高収益な経営を実現している。

・受賞者の特色

（１）経営管理基盤としてのスマート農業技術

「営農支援システム」を圃場情報・収量・作業進捗・人員配置を結び付ける経営管理ツールとして活用している。収量データを翌年の肥培管理に反映して収量・品質向上につなげるとともに、圃場整備が十分でない条件下においても、データの活用等により水稻の 10a 当たり労働時間 8.8 時間と全国平均（50ha 以上の経営体）を下回る高い労働生産性を実現している。

（２）地域農地の受け皿としての役割と近隣実需者との安定的な取引

高齢農家・離農者の農地を継続的に受託し、濁川地区の水田約 170ha の半分以上を担うことで、耕作放棄地の発生を防いでいる。加えて、産地精米を行い、近隣の実需者と直接結び付くことで、米の安定的な販売を実現している。

（３）多様な職員が活躍できる体制づくり

有給休暇の取得促進や夏期のフレックスタイム制の導入、賞与及び決算手当の支給、育児・介護休暇制度や男女別更衣室の整備等により、働きやすい環境を整えている。また、農業大学校等を通じて地区外からも広く若手人材を確保するとともに、役員への内部登用や若手への権限移譲により将来経営を担う道筋を示すことで、20 歳代の職員の高い定着率と意欲の向上を実現している。

・普及性と今後の発展方向

化学肥料削減や J-クレジットの中干し延長等の環境配慮を継続しつつ、10 年以内に地区の水田面積の大部分である 120～130ha の経営規模を見据え、設備投資を進めている。地域農地の維持、経営多角化、若手・女性の定着を両立させ、地域農業の中核経営体としての役割を一層高めることが期待される。

令和 8 年度天皇杯受賞者受賞理由概要  
園芸部門

育種・生産・販売の一体化と DX 化による収益性向上・経営基盤強化

○氏名又は名称 株式会社 モテギ洋蘭園（代表 茂木 敏彦）

○所 在 地 埼玉県本庄市

○出 品 財 産物（洋蘭）

○受 賞 理 由

・地域の概要

本庄市は埼玉県北西部に位置し、北には利根川が流れ、南西部は 500m 級の山が連なる中山間地であり、自然環境に恵まれた地域である。本市の農業産出額は 111 億円（令和 6 年）で、野菜、花き、米、麦類の生産や、畜産が盛んである。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

（株）モテギ洋蘭園代表の茂木敏彦氏は、農業大学校を卒業した昭和 50 年に 50 坪の温室でカトレア及びファレノプシスの切り花経営を開始した。大手市場への出荷ではなく、地方市場を中心とした独自の流通体制を構築し、平成 2 年の法人化後はアメリカ視察を契機として現主要品目のファレノプシス（鉢物）の栽培に着手した。近年は、クラウド販売管理システム「花くらうど」を活用したデータ分析に基づく経営を進め、栽培面積を 3,200 坪まで拡大している。

・受賞者の特色

（１）育種・生産・販売の一体化

台湾に育苗施設を整備し、安定した苗の輸入体制を確立することで品質向上を図っている。また、独自の流通網による全国展開に加え、都内 2 か所の直営店を運営するなど、多様な販売チャネルを構築している。さらに、顧客ニーズに応えるため、品種改良に積極的に取り組み、多数のオリジナル品種を開発している。育種・生産・販売を一体的に展開することで、高品質な商品の安定供給と収益性の向上を実現している。

（２）DX 化による花き業界の牽引

「花くらうど」の開発と普及を進め、これを活用して、データに基づく経営分析により具体的な販売戦略を打ち出し、全国 40 社以上の卸売市場に加え、生花販売会社との取引拡大を推進した。また、市場取引のデジタル化を進めることで業務効率を向上させ、安定的な出荷体制を構築している。さらに、先進的な DX の取組を通じて、花き業界全体のデジタル化を牽引している。

・普及性と今後の発展方向

新規就農者を積極的に雇用し、将来の洋蘭生産を担う人材の育成に努めるとともに、顧客ニーズに対応した商品開発に向けて積極的に品種改良を行い、市場ニーズに応じた商品展開や販路の多角化を推進し、消費拡大を図る。

さらに、「花くらうど」を活用した DX を推進し、花き流通の革新を牽引していく。

令和8年度天皇杯受賞者受賞理由概要  
畜産部門

健康な鶏育成に配慮した飼育管理と地域活性化のための養鶏経営

○氏名又は名称 有限会社 グリーンファーム久住（代表 荒牧 大貴）

○所 在 地 大分県竹田市

○出 品 財 経営（採卵鶏）

○受 賞 理 由

・地域の概要

竹田市久住町は阿蘇くじゅう国立公園の一角にあり、標高600mという環境のもと、くじゅう連山や阿蘇外輪山などの1,000m級の山岳に囲まれ、豊かな自然を有している。竹田市の農業産出額は277億円、うち畜産は120億円（県内1位）である。中でも採卵鶏（鶏卵）は18億円（県内1位）で、竹田市の全農業産出額の6.5%を占めている。農家戸数は、乳用牛5戸、肉用牛258戸、豚11戸、肉用鶏15戸、採卵鶏19戸となっている。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

本経営の最大の特徴は、60年以上前から続けられている採卵鶏の平飼飼育と土着菌を活用した「平飼堆積発酵床」の利用である。令和5年に荒牧大貴氏が代表に就任後、地域雇用の拡大を視野に入れ、県内で初めて「畜舎特例法」を活用し、新たに平飼育成舎2棟（3千羽／棟）、平飼成鶏舎7棟（3千羽／棟）を建設した。既存の平飼い及びケージ飼いの開放鶏舎を含め現在約9万羽が育成されている。さらに、カフェ及び加工兼直売所を開店させ地産地消を進めるとともに、自社ブランド卵を生産し地域のブランド化にも寄与している。また、従業員の意見を経営に積極的に取り入れながら働き方改革を実行するなど、労働環境の改善と次世代育成に努めている。

・受賞者の特色

（1） 鶏のストレスを排除した飼育方法の確立と循環型農業の実践

- ① 全国的にも珍しい平飼育雛舎でのヒナの育成から成鶏舎での採卵まで一貫した飼育管理が行われており、鶏の成長に合わせた飼育環境の調整と行動観察が行われている。また、鶏舎内への止まり木の設置などアニマルウェルフェアの取組を実践している。
- ② 敷料は良質な土着菌を利用した「平飼堆積発酵床」とすることでアンモニア臭やハエの発生を抑えるとともに、微生物の活性向上に寄与する飲水の給与により腸内環境を整える育成に取り組んでおり、18週齢の育成率は98.5%と非常に高い。

（2） 養鶏産業で地域を活性化させる取組と働き方改革

- ① カフェ及び加工兼直売所を立ち上げ地産地消等を進めている。雇用についても、40名の従業員の大半を市内から雇用している。また、従業員の意見を反映して働きやすさに配慮した労働環境の改善に取り組んでいる。
- ② 全従業員の67.5%が女性である。農場では女性が飼育管理リーダーやGPセンター（卵選別包装施設）長を担うほか、機械作業にも従事している。店舗事業部でも女性が店長・責任者として商品開発や店舗企画に参画し、個々の能力やアイデアを生かした取組が行われている。

・普及性と今後の発展方向

持続可能な養鶏の実践により生産物のブランド化や6次産業化、耕畜連携を展開しており地域の活性化に寄与している。さらにストレスの少ない飼養管理を維持しつつ飼養規模の拡大（10年後15万羽）、生産卵の輸出等を計画しており、今後の発展が期待される。

令和8年度天皇杯受賞者受賞理由概要  
林産部門

ICT 技術で高品質・高効率・持続的な原木しいたけ生産を確立

○氏名又は名称 石原 敬・石原 裕

○所 在 地 熊本県菊池市

○出 品 財 産物（乾しいたけ）

○受 賞 理 由

・地域の概要

菊池市は県の北東部に位置し、市域の多くを森林が占め、林業は地域経済を支える重要な産業の一つとなっている。市内にはスギやヒノキの人工林に加えクヌギなどの広葉樹林も広がっている。乾しいたけは市を代表する林産物であり、クヌギ原木を用いた伝統的な原木栽培が盛んである。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

石原夫妻は、自己所有林1haと借入林3haの合計4haのスギ人工林の中で、クヌギ林から得られるほだ木を活用した原木しいたけ栽培に取り組み、令和7年度は乾しいたけ2.5t、生しいたけ1tを生産している。

「自然と共に生きる」ことを重視し、気候変動や自然条件を的確に把握しながら長期的視点に立った計画的な経営を行っている。しいたけ生産を次世代へつないでいくことを重要な使命と捉え、自らの経験やノウハウを積極的に共有し、地域全体の持続可能なしいたけ生産に貢献したいという強い理念を持って経営している。

・受賞者の特色

原木しいたけ栽培は自然条件に大きく左右される。石原夫妻は令和6年2月から環境センサーで温度、湿度、雨量、風速、日照などのデータをリアルタイムで収集し分析を始めた。その結果を散水管理やしいたけの発生予測に反映することで省力化と品質向上を両立しており、経験や勘だけに頼らないデータに基づく栽培管理は、しいたけの高品質化及び経営の安定化に大きく寄与している。

また、家族報酬制度や休日の設定も行い、家族経営でありながら労働環境の整備に配慮した経営を実践している。

さらに、地域の生産者と連携してクヌギ林を共同で整備し、原木の安定確保と里山の環境・景観保全に取り組み、森林資源の循環利用に貢献しながら、持続可能なしいたけ生産を展開している。

・普及性と今後の発展方向

石原夫妻の取組は、伝統的な原木乾しいたけ栽培にデジタル技術を組み合わせた先進的な経営モデルであり、全国のしいたけ生産者にとって高い普及性を有する。環境センサーで得たデータを活用した科学的な栽培管理は中小規模の生産者にも応用可能であり、気候変動への対応や品質向上を目指す産地全体の課題解決につながるものである。

また、石原夫妻は、原木しいたけ生産を地域の文化として継承する使命感を持ち、技術を独占するのではなく、林業研究グループ活動や若手生産者へ共有しているほか、小学校での駒打ち体験等を実施しており、地域の森林保全、人材育成、林業振興を一体的に推進する取組として高く評価できる。

令和 8 年度天皇杯受賞者受賞理由概要  
水産部門

錦江湾から世界へ ～魚づくりと人づくりが支える輸出競争力～

○氏名又は名称 有限会社 田村水産（代表 田村 洋平）

○所 在 地 鹿児島県垂水市

○出 品 財 経営（漁業経営改善）

○受 賞 理 由

・地域の概要

鹿児島県垂水市は、大隅半島の北西部に位置しており、穏やかで深い錦江湾に面している。受賞者が所在する牛根地区は、海面での魚類養殖が盛んであり、主にブリ、カンパチ等の養殖が行われている。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

自社採捕したモジャコを成魚まで一貫して管理・育成をしており、海外市場向けの大型ブリの生産に特化している。生産されたブリのサイズ及び品質について海外市場で高い評価を得ており、米国西海岸を中心に広く流通している。従業員構成は 13 名であり、平均年齢は 35 歳と若い人材を擁している。

・受賞者の特色

（１）大型ブリ生産に向けた技術の確立

ブリ養殖では、需要期である冬期に向けて給餌量を増加していく手法が一般的であるのに対し、（有）田村水産は「性成熟が進む春期に給餌量を抑制する」という独自の給餌スケジュールを確立し、ブリの急速な増重を達成するサイクルを構築した。加えて、優良種苗の厳格な選抜や生け簀の深層化等、錦江湾における先進的な技術を積極的に取り入れる柔軟な経営姿勢により、大型ブリの安定生産を実現した。

（２）人材確保・育成のための取り組み

若年層を対象とした採用活動を現代表自らが積極的に行うとともに、労務環境及び就業時間の改善に取り組んだ結果、人材の確保及び定着に成功している。機械化・デジタル化の推進により、養殖データの一元管理と効率的なデータ活用を可能にし、組織全体で養殖技術を共有する体制を整備したことで、若手人材への技術継承に繋げている。

・普及性と今後の発展方向

現在は海洋温暖化を見据えた養殖メソッドの最新化や、東アジア諸国への「活魚の輸出ルート」の新規開拓に着手している。本取組で培われた技術は周辺経営体にも普及し、地域全体の技術向上や地域経済の活性化に寄与していることから、本取組は養殖業に限らず広く漁業者の参考となる好事例と考えられる。

令和 8 年度天皇杯受賞者受賞理由概要  
多角化経営部門

DX の活用と外国人材の育成・活用を実現

○氏名又は名称 株式会社 農園たや（代表 田谷 徹）

○所 在 地 福井県福井市

○出 品 財 経営（ベビーリーフほか）

○受 賞 理 由

・地域の概要

福井市は県北部に位置し、九頭竜川流域の肥沃な沖積平野と豊富な水資源を有する地域である。市街地近郊の立地等を活かした、稲作や白ネギ、かぼちゃ等の園芸作物の生産が盛んである。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

（株）農園たや代表の田谷氏は、平成 19 年に就農し、ベビーリーフを中心とした野菜生産を行っている。青年海外協力隊やインドネシアへの留学の経験を活かし、平成 20 年からはインドネシア人技能実習生の受入れや自社開発アプリを活用した作業の見える化・標準化等を進め、多品目野菜を効率的に生産する体制を構築した。

・受賞者の特色

（１）経営の見える化と DX の活用による徹底した経営改善

自社開発アプリを活用して作業時間や出荷量、労務情報を集約し、栽培から販売までの情報を数値化することで経営の見える化を実現した。収集したデータを基に品目ごとの収益性や作業効率を分析し、生産計画や設備導入を最適化した結果、作付回転率や労働生産性が向上した。さらに、作業マニュアルの整備や情報共有を進めることで、従業員が主体的に改善に取り組む体制を構築した。

（２）外国人材の育成及び活用

同社のインドネシア事業部において、特定技能実習生の受入れを行うとともに、帰国後の就農・起業に向けたビジネスプランの作成支援等をインドネシア農業省と共同で行い、人材育成と国際的な人材還流を推進した。また、福井県やインドネシア農業省と連携しながら、県内 16 経営体へ 51 人の人材斡旋を行った。

・普及性と今後の発展方向

DX 化による経営の見える化や作業の標準化を進めており、自社開発アプリを活用した生産管理や労務管理の仕組みを構築することで、生産性向上と省力化を実現した。また、県内農業法人への人材斡旋に加えて、全国 210 名のインドネシア人材のビジネスプラン作成支援を行い、外国人材の育成や地域農業の担い手確保に貢献しており、将来的には、同社だけでなく地域の農業経営にも参画できるような人材を育てていく。

令和8年度天皇杯受賞者受賞理由概要  
むらづくり部門

里山の営みを次世代に紡ぐ

○集団等の名称 六ノ里自治会（代表 集山 政治）

○所 在 地 岐阜県郡上市

○受 賞 理 由

・地域の沿革と概要

六ノ里集落は、岐阜県郡上市の山間部に位置する82戸の集落であり、長良川源流域の豊かな自然に恵まれた地域である。地域には棚田が広がり、国重要無形民俗文化財である拝殿踊りや県の天然記念物の善勝寺のさくらなど、歴史的・文化的資源が残されている。一方で、高齢化や人口減少、遊休農地の増加が進む中、伝統文化の継承、棚田振興など地域資源を活かしたむらづくりに取り組んできた。

・むらづくり組織の概要

六ノ里自治会を中心に、「六の里棚田米生産組合」、「六ノ里地域づくり協議会」、「六ノ里棚田地域振興協議会」、「六ノ里雪おろし応援隊」等が設立され、それぞれが役割を分担しながら活動している。自治会が住民の合意形成や各組織間の調整を担い、集落全体で地域課題の解決に取り組む体制を構築している。

・むらづくりの取組概要

（１）農業生産面

- ① 六ノ里集落内で生産される棚田米のブランド化に取り組み、独自の栽培基準や食味管理を徹底することで大幅な品質向上を図り、生産者数や栽培面積の拡大につなげている。
- ② 「六ノ里・棚田にじいろプロジェクト」により、イラスト田んぼや農業体験を通じた都市農村交流を継続し、棚田の維持と農業への理解促進を図っている。
- ③ 中山間地域等直接支払制度や多面的機能支払制度を活用し、地域ぐるみで棚田や水路の保全活動に取り組んでいる。

（２）生活・環境整備面

- ① 拝殿踊りや三寺参り、桜祭りなど地域の伝統文化の継承に取り組むとともに、広報紙の発行や棚田景観の整備活動を通じて、住民参加による地域コミュニティの維持・活性化を図っている。
- ② 「六ノ里・棚田にじいろプロジェクト」や大学との交流活動により、地域内外のつながりを創出するとともに、高齢者宅の雪下ろし支援など住民同士の助け合い活動を実施し、安心して暮らし続けられる集落づくりに取り組んでいる。

・他地域への普及性と今後の発展方向

本取組は、自治会を核として地域課題ごとの組織を整備し、農業振興、文化継承、生活支援を一体的に推進している点に特徴がある。また、棚田米のブランド化と都市農村交流を両立しながら中山間地域の農地保全を実現している。地域住民が主体となり集落機能の維持・発展を推進する本取組は、全国のむらづくりのモデル事例になり得るものである。

令和 8 年度内閣総理大臣賞受賞者受賞理由概要  
農産・蚕糸部門

有機玉露と土づくりが支える輸出向け日本茶ブランドの確立

○氏名又は名称 合同会社 さかもと（代表 坂元 修一郎）

○所 在 地 鹿児島県志布志市

○出 品 財 経 営（茶）

○受 賞 理 由

・ 地域の概要

志布志市は、鹿児島県東部に位置し、温暖な気候と広大な茶園を有する県内有数の茶産地であり、茶栽培面積は1,242haで県内第2位、荒茶生産量は4,542tを誇る。「ゆたかみどり」や「さえみどり」等の多様な品種が栽培されており、近年はてん茶の生産拡大や有機栽培を推進し、輸出向け茶の生産にも取り組むなど、幅広い需要に対応した産地形成が進められている。

・ 受賞者の取組の経過と経営の現況

合同会社さかもとは、40年以上前から有機栽培に取り組み、全茶園で有機 JAS 認証を取得している。一番茶のみを使用した有機玉露及び有機てん茶を主力品目とし、生産した茶のほぼ全量を EU・英国や米国等へ輸出し高単価を実現している。生産から加工、販売、輸出までを一貫して行う経営体制を構築するとともに、独自のぼかし肥料（有機発酵肥料）の製造・販売にも取り組み、有機栽培茶の高付加価値化と経営の安定化を実現している。

・ 受賞者の特色

（1）独自のぼかし肥料を活用した有機栽培技術

地域で発生する飼料等廃棄物や鉱物資源等を活用した独自のぼかし肥料を開発し、全ほ場に施用することで、地力の向上と病害虫の発生抑制を図る有機栽培技術を確立してきた。現在は年間約 2,500t を製造し、自社利用に加え、地域の農業者にも供給し、有機農業の振興を下支えしている。

（2）全国的にも希少な有機玉露の生産と自社ブランドの確立

有機栽培茶の約 7 割を玉露として生産しており、全国的にも希少な有機玉露を主力商品としている。海外での認知度がまだ低かった中、有機玉露の魅力発信や海外ニーズに対応した品種への改植等に精力的に取り組み、高級茶として高い評価を受ける「さかもとブランド」を確立するとともに、EU・英国 や米国を中心に輸出を拡大している。

（3）地域への貢献

代表の坂元氏は、県指導農業士として新規就農者や青年農業者への指導を行うほか、志布志市茶業振興会会長として茶業振興に取り組んでいる。また、茶摘み体験イベントの開催やぼかし肥料の供給を通じ、地域農業の発展に貢献している。

・ 普及性と今後の発展方向

40 年以上にわたり培ってきた、独自のぼかし肥料を活用する有機栽培技術は、国内外からの講演依頼や視察の受入れを通じて広く普及している。今後は、有機玉露及び有機てん茶の品質向上と輸出拡大を図るとともに、次世代への技術継承や人材育成を進めながら、持続可能な茶業経営の実現を目指している。

令和8年度内閣総理大臣賞受賞者受賞理由概要  
園芸部門

お客様も、従業員も、誰もが快適に過ごせる観光農園の実現

○氏名又は名称 株式会社 フルトリエ（代表 中村 美紗）

○所 在 地 福岡県久留米市

○出 品 財 経営（なし、ぶどう、いちご）

○受賞理由

・地域の概要

久留米市は福岡県内最大の農業産出額を誇り、平坦地では土地利用型作物や園芸作物、丘陵地や山間部では、カキ、ブドウ、ナシ等の果樹類が栽培されている。市内には3つの総合農協（JA 福岡くるめ、JA 福岡大城、JA みづま）が存在し、地域毎に特色のある農業が営まれている。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

（株）フルトリエ代表の中村美紗氏は、100年以上続くナシ専業農家「中村果樹園」に生まれ、祖父が体調を崩したことをきっかけに、就農を決意した。AFJ 日本農業経営大学校に入学、経営ビジョンを構想し、平成29年に就農した。4代目として、新たなブランド「Fruitelier（フルトリエ）」を立ち上げ、ナシ専業から複合経営へと舵を切った。平成30年には雇用型経営に着手し、直売所とカフェも新設した。令和4年に法人化し、多角的な経営を展開している。

・受賞者の特色

（1）作業の省力化と農園のバリアフリー化

ナシでは省力樹形を導入し、作業の省力化、早期成園化を実現している。観光用園地では低樹高で作業姿勢が楽になる樹形を取り入れ、観光客だけでなく、作業者の負担軽減にもつながっている。

（2）誰もが楽しめる観光農園

バリアフリー化した観光農園では、障害者向けツアーやデイサービスの遠足等も積極的に受け入れている。外国人観光客向け予約サイトを設けるとともに、一部園地ではペット同伴のフルーツ狩りを可能とし、多くのリピーターを獲得している。

（3）いきいきと働ける環境づくり

スタッフの多くが子育て世代の女性で、仕事と育児を両立できるよう、就業規則や各種休暇制度を導入し、育児休業や柔軟な休暇が取得できる福利厚生を充実させている。さらに、国の事業を活用し、託児スペースを設置して保育士派遣会社と業務提携を行い、スタッフが安心して働ける環境を整えている。

・普及性と今後の発展方向

研修生を積極的に受け入れ、次代を担う若手農家の育成に注力していく。地域を守り、栽培面積及び事業の拡大を視野に、新規就農希望者が増える仕組みづくりを模索し、産地の維持発展につながる経営を目指している。

令和 8 年度内閣総理大臣賞受賞者受賞理由概要  
畜産部門

外部依存度が低く、草地資源を最大限に活用した環境調和型の放牧酪農

○氏名又は名称 近津 義尊・近津 佐和子

○所 在 地 北海道野付郡別海町

○出 品 財 技術・ほ場(永年牧草)

○受 賞 理 由

・地域の概要

別海町は北海道の東部に位置し、農業産出額639億円のほとんどを畜産が占め（637億円）、そのうち生乳は549億円（85.8%）であり、北海道において特に酪農が盛んな地域である。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

義尊氏は夫婦で道内において実習した後、根室市の大規模家族経営で農場長として牧場経営の経験を積み、農場リース事業を活用して別海町で新規就農した。令和6年度時点で草地 50.6ha、成牛 43 頭、育成牛 17 頭の放牧を中心とした飼養体系であり、飼料自給率 80%を達成している。

・受賞者の特色

（１）資源循環と有機飼料生産による持続的な放牧酪農

- ① 自然条件を活かした草地配置と多様な牧草種の維持により持続的な放牧酪農を実践している。年間 200 日の放牧で購入飼料を最小限に抑え、飼料自給率 80%、乳飼比 21.6%（道平均 35.8%）の低コストで効率的な酪農経営を実現した。
- ② 堆肥や鶏ふん、ホタテ貝殻を採草地へ施用することで、平成 25 年から化学肥料ゼロの有機飼料生産へ転換した。適切な肥培管理により土壌養分と牧草品質を維持し、令和元年には全草地で有機飼料認証を取得した。

（２）牛伝染性リンパ腫の清浄化

令和元年に牛伝染性リンパ腫の発生を契機として全頭検査を実施し、約 3 割の感染牛が判明したため、計画的な淘汰による清浄化に着手した。令和 6 年には 2 回の全頭検査で陰性を確認し、5 年かけて清浄化を達成した。経営判断の下で徹底した感染症対策を実践した先進的な事例である。

（３）効率的繁殖管理の実践

近津牧場では春と秋に分けて分娩を行う「半季節繁殖方式」を採用している。春に生まれた雌子牛は将来の乳牛として育成し、秋にはホルスタイン種と黒毛和種を掛け合わせた子牛を生産・販売して収益確保につなげている。この方式により、子牛の月齢や母牛の繁殖ステージを揃え、飼養管理の効率化を図っている。

・普及性と今後の発展方向

資源循環を基本とし、環境と営農が調和した低コストで持続的な経営は、放牧酪農を目指す新規就農者や家族経営農家にとって有用なモデルとなる。今後は、穀物飼料に依存しない有機牛乳生産を目指すとともに、めん羊飼育や羊肉販売にも取り組み、持続性とゆとりを両立する経営モデルとして、地域酪農への幅広い普及が期待される。

令和 8 年度内閣総理大臣賞受賞者受賞理由概要  
林産部門

豊かなスギ資源の活用と再造林率 100%の達成「佐伯型循環林業」

○氏名又は名称 佐伯広域森林組合（代表 戸高 壽生）

○所 在 地 大分県佐伯市

○出 品 財 経営（林業経営）

○受 賞 理 由

・地域の概要

佐伯市は県南部に位置し、県内で最も広い78,757haの山林を有している。古くは薪炭材を生産していたが、燃料革命以降樹種転換が進んだ。スギは1,457万 $\text{m}^3$ の蓄積を有し、日田市と並び大分県林業の主力産地となっている。成長が早く、材質に優れたオビスギを主体に植林が行われたことで全国的にも早く資源が充実し、利用期を迎えている。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

佐伯広域森林組合は、平成2年に6森林組合が合併して発足した。佐伯市の全域を所管し、国内でも有数の規模を誇る。平成20年に原木消費量11万 $\text{m}^3$ の製材工場を建設して以降、50年サイクルで森林資源を循環させる「佐伯型循環林業」を経営理念に掲げ、「伐って、使って、植えて育てる」の全てに組合が責任を持つことで、地域の資源と雇用の継続性を確保し、資源を基とした地方創生の核となっている。

・受賞者の特色

同組合では、「佐伯型循環林業」の経営理念のもと、工場建設に当たって小曲材を加工できるカーブギャングソーを組み込んだことに始まり、チップ工場、大径材を利用するツーバイ材生産ラインの増設など、継続的に設備投資を行い地域資源の付加価値化を追求してきた。製材に向かない大曲材などは輸出商社に安定供給することで有利販売を行うとともに、生産過程で発生するおが粉やチップも畜産業者や製紙工場等に販売することで、地域資源を余すことなく付加価値化している。

平成25年からコンテナ苗の生産を開始し、再造林に必要となる苗木生産体制を構築したことや、山主、伐採事業者、運搬事業者等への適切な利益配分、植栽から5年間の初期保育まで責任を持って行う仕組みにより、経営受託森林を含めると佐伯市の人工林面積の92%に及ぶ森林経営を担う信頼性を確保し、再造林率も100%を達成している。また、造林作業を通年で確保することにより若年者の起業が相次ぎ、雇用の創出と定着に貢献している。さらに、令和5年から市内の福祉施設と連携し、障害者が就労できる場を提供している。コンテナへの土の充填作業や散水などを組合から請負う施設では、通所者の受け取る賃金が大きく増え、障害者のやりがいにつながっている。

「がんばろう国産材！」をスローガンに掲げ、国産材需要の拡大に向けて国内のプレーヤーが一丸となって取り組むという精神が組合全体に息づいており、地域の林業経営を担う旗振り役として、業界全体が活性化するための取組を行っている。

・普及性と今後の発展方向

同組合は、年中要望のある視察を積極的に受け入れ、佐伯型循環林業のノウハウを広く公開している。苗木生産においては特定母樹の採穂園を整備し、順次特定苗木に切り替えることで再造林コストの低減や品質安定化を図っていく。また、森林所有者や製材需要者など組合の事業に関わる全ての関係者を重要な顧客と捉え、山づくりとモノづくりのバランスを保つべくすべての顧客への利益プラス $\alpha$ を継続的に追求するマーケットインの組合運営を実践することとしている。

令和 8 年度内閣総理大臣賞受賞者受賞理由概要  
水産部門

新米漁師の挑戦と軌跡 ～安宅漁港から広がる“魚の魅力”～

○氏名又は名称 石川県漁業協同組合小松支所 港の直売所（代表 中島 睦美）

○所 在 地 石川県小松市

○出 品 財 経営（流通・消費拡大）

○受 賞 理 由

・ 地域の概要

小松市は石川県南西部に位置し、受賞者の所在する<sup>あたかまち</sup>安宅町は海運の要所を担い、賑わいを見せた歴史を持っている。安宅漁港はアカイカ、カレイ類、タイ類、アズキ貝（バイ貝）などの様々な魚種を水揚げする沿岸漁業の重要な拠点である。

・ 受賞者の取組の経過と経営の現況

港の直売所は 30 代から 70 代までの地元住民や移住者 8 名で構成され、水揚げが極端に減少する冬期を除き毎週土曜日の週 1 回営業している。市場で少量多品種ゆえに値がつかない「未利用・低利用の地魚」を 1 キログラム最低 200 円という独自の「最低買取価格」を設定して買い取る仕組みを構築した。代表の中島氏は高知県で生まれ平成 13 年に石川県小松市へ移住し、その後一級小型船舶操縦免許、ふぐ処理資格者免許を取得し、令和 6 年に石川県漁業協同組合の女性准組合員に加入した。

・ 受賞者の特色

（１）地域における合意形成

当初は「漁港という職場の中に知らない一般の人々が立ち入ること」に対する強い反対意見が一部の地元漁業者からあったが、中島氏は出漁前の準備などの手伝いを熱意と誠実さをもって地道に続け、時間をかけて大きな信頼を獲得した。

（２）小規模ながらの創意工夫

漁港内の空き小屋を自ら改装し、中古のガスフライヤーなどの設備を自費で調達して加工場を兼ねた直売所を開業し、調理師としての経験を生かして下処理した鮮魚、事前予約制の弁当や急速冷凍を施したアズキ貝等を販売している。

（３）女性の活躍

地元でもなく、船もない女性の中島氏が「漁業者としての出漁」と「調理師の経験を活かした直売所の切り盛り」を両立させる姿は、メディアや SNS 発信により認知度が向上し、直売所の売上げの上昇、新規就業者の定着や女性漁業者ネットワークの構築につながっている。

・ 普及性と今後の発展方向

地域の食材廃棄を無くし、生産者の顔が見える信頼関係の中で人々が温かく繋がりが合える地域の賑わい拠点の構築を志す中島氏の取組は、他の地域においても十分に参考になると考えられる。

令和8年度内閣総理大臣賞受賞者受賞理由概要  
多角化経営部門

多様な販売チャネルの構築による経営の多角化を実現

○氏名又は名称 株式会社 やまがたさくらんぼファーム（代表 矢萩 美智）

○所 在 地 山形県天童市

○出 品 財 経営（さくらんぼ）

○受 賞 理 由

・地域の概要

天童市は県の中央部、東寄りに位置し、水量が豊富で水はけの良い扇状地と平坦な農地を有する地域である。農業は果樹と水稻を中心に展開されており、県の農業産出額のうち、果実の産出額が占める割合が高い。特に、さくらんぼや西洋ナシの生産が盛んである。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

（株）やまがたさくらんぼファームは、災害やコロナ禍による観光客減少を契機に、EC、直販、加工、飲食を組み合わせた多角化経営を展開した。加温ハウスの導入や品種構成の見直しにより収穫・観光期間を延長するとともに、カフェの開設による集客力向上を実現した。また、規格外品や摘み残し果実を加工品として活用し、食品ロス削減と収益力向上を両立した。

・受賞者の特色

（１）収穫期間延長の取組

加温ハウスによる促成栽培を導入し、露地栽培に先駆けて5月下旬から収穫できる体制を整備するとともに、極晩生品種の導入を進めた。これにより、従来は約3週間であった収穫期間を約7週間へ延長し、観光農園の開園期間拡大と経営の安定化を実現した。また、高温に強い品種への転換や目的に応じた30品種以上の栽培にも取り組んだ。

（２）経営安定に向けた多角化の取組

観光農園に依存しない経営体質への転換を図り、通信販売を強化するとともに、カフェ等を開設するなど事業を拡大した。規格外品等を活用し、地元企業と連携してフルーツソースやジェラート等の加工品を開発したほか、自社果実を使用したパフェを提供するカフェを展開し、新たな顧客層の獲得と収益力の向上を実現した。

・普及性と今後の発展方向

高齢な農業者の離農による農地等の継承が課題となる中、近隣園地の集積や継承を進め、地域の果樹産地の維持に貢献している。今後は、農地の集積、スマート農業技術等の活用による作業の効率化、加工向け果実の生産拡大を進め、更なる経営発展を目指している。

令和8年度内閣総理大臣賞受賞者受賞理由概要  
むらづくり部門

1000年つづく毛原の里づくり

○集団等の名称 毛原の棚田ワンダービレッジプロジェクト（代表 水口 一也）

○所 在 地 京都府福知山市

○受 賞 理 由

・地域の沿革と概要

毛原地区は、京都府福知山市大江町に位置する12戸23人の小規模な山間集落である。約600枚の棚田が山裾に広がり、「日本の棚田百選」や「つなぐ棚田遺産」に選定されるなど、美しい景観と伝統的な農村文化を有している。一方で、人口減少や高齢化が進む中、平成初期から住民による話し合いを重ね、棚田の保全と都市住民との交流を軸としたむらづくりを展開してきた。

・むらづくり組織の概要

平成27年に設立された「毛原の棚田ワンダービレッジプロジェクト」は、地域住民だけでなく毛原を応援する「村外村民」も参加する組織である。「1000年つづく里づくり」を理念に掲げ、棚田保全、交流活動、商品開発、暮らしの支援などを総合的に推進している。また、行政、大学、企業、NPOなど多様な主体との連携を進めながら、地域内外の人材を巻き込んだ持続的な地域運営を実践している。

・むらづくりの取組概要

（１）農業生産面

- ① 棚田オーナー制度や棚田taikanツアーを長年継続し、棚田保全と都市農村交流を両立している。
- ② クラウドファンディングにより食品加工所「毛楽里」を整備し、地域資源を活用した加工品開発や販売に取り組み、女性の活躍の場と収益機会を創出している。
- ③ 棚田オーナーや交流参加者から就農・定住につながる事例が生まれるなど、交流を担い手確保へとつなげる仕組みを構築している。

（２）生活・環境整備面

- ① 地域通貨「けーら」を発行・活用し、草刈りや地域活動への参加を促進することで、集落内外の支え合いの仕組みづくりを進めている。
- ② 全世帯へのスマートスピーカー導入やICT活用により、見守りや情報共有の充実を図るとともに、縁側喫茶や交流活動を通じてコミュニティの維持・活性化に取り組んでいる。

・他地域への普及性と今後の発展方向

本取組は、住民主体による長年の話し合いを基盤として、棚田保全、交流活動、商品開発、生活支援を総合的に展開している点に特徴がある。また、棚田オーナー制度や棚田taikanツアーを通じて交流人口を創出し、関係人口、さらには移住・定住へとつなげる仕組みを構築している。地域通貨やICTの活用など新たな手法も取り入れながら、小規模集落の維持発展に取り組む本取組は、人口減少や高齢化が進む全国の中山間地域におけるむらづくりのモデル事例になり得るものである。

令和 8 年度日本農林漁業振興会会長賞受賞者受賞理由概要  
農産・蚕糸部門

品質保証と経営多角化で築く茶業経営の持続的成長

○氏名又は名称 株式会社 春日園川路製茶（代表 川路 到）

○所 在 地 鹿児島県日置市

○出 品 財 経営（茶・大麦若葉・桑）

○受 賞 理 由

・地域の概要

日置市は、鹿児島県西部の薩摩半島中央部に位置し、東は鹿児島市に接し、西は東シナ海に面している。温暖な気候と多様な地形を活かした複合型農業が展開されており、特に、中山間地域では茶の栽培が行われている。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

株式会社春日園川路製茶は、平成 18 年に法人化し、茶の生産から加工・販売までを一貫して行うとともに、桑や大麦若葉の生産にも取り組む複合経営を展開している。収益源の多角化による経営リスクの分散と工場稼働率の向上、従業員の通年雇用を図りながら、地域に先駆けて茶の有機栽培を推進し、多様な消費者ニーズに対応した商品開発・販売や、品質保証に関する各種認証の取得を強みに輸出にも力を入れており、持続性と収益性を兼ね備えた経営体制を実現している。

・受賞者の特色

（１）品質保証体制の構築

平成元年から有機栽培に取り組み、害虫の繁殖を抑えるフェロモン剤等の新技術の導入や自社製ぼかし肥料（有機発酵肥料）の活用等を進めることで、茶園の約 9 割で有機 JAS 認証を取得し、有機栽培茶の安定生産体制を確立している。令和 2 年には ASIAGAP 認証を取得し、農場内のリスク管理体制の整備や作業工程の標準化、従業員の衛生・安全意識の向上を図ることで、国内外の取引先からの信頼向上と販路の拡大に繋げている。

（２）桑・大麦若葉の生産による経営多角化

茶価の変動や雇用の季節偏在に対応するため、茶生産で培った技術や設備を活用し、桑と大麦若葉の栽培・加工に取り組んでいる。茶生産の合間や閑散期を活用した生産体制により、従業員の通年雇用と工場稼働率の向上を実現したほか、荒廃農地を活用した桑畑の整備や、地域農家への大麦若葉の生産委託を通じて、地域農業の活性化にも貢献している。

（３）スマート農業技術の導入

茶園の大規模化・団地化による作業効率化を図るとともに、営農管理システムの導入により、広大な茶園と茶を含む多品目の栽培管理データを一元管理し、全従業員がほ場情報や作業状況を共有できる体制を確立している。

・普及性と今後の発展方向

認証取得による付加価値向上と経営の多角化、ICT の活用を組み合わせた取組は、持続可能な農業経営モデルとして、国内茶業の維持・発展に大きく貢献することが期待される。また、有機農業の先駆者として培った技術や経験を地域農家へ積極的に普及するとともに、荒廃農地の再生にも取り組むなど、地域農業の振興と担い手育成に大きく寄与している。今後は、需要の変化に対応した生産体制の構築や人材育成をさらに推進し、次世代へ魅力ある農業を継承することを目指している。

令和 8 年度日本農林漁業振興会会長賞受賞者受賞理由概要  
園芸部門

こだわりの土づくりで、唯一無二のブランドを確立

○氏名又は名称 株式会社 釈迦のりんご園（代表 工藤 秀明）

○所 在 地 青森県平川市

○出 品 財 経営（りんご）

○受 賞 理 由

・地域の概要

平川市は津軽平野南端に位置し、りんごの生育に適した気象条件を備える。また、東北自動車道へのアクセスが良好で、主要消費地へ迅速かつ効率的に出荷できる利便性も兼ね備えた立地である。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

（株）釈迦のりんご園代表の工藤秀明氏は、県立柏木農業高校を卒業後、旧青森県りんご試験場での実習を経て、昭和 55 年に就農し、「りんご本来の味を極める」という信念のもと、土壌微生物の力を最大限に引き出す独自の「釈迦農法」を確立した。品評会で上位入賞を重ね、高級果物店との直接取引や自社ブランドの展開により、販売額を飛躍的に増加させている。勉強会を主宰し後進育成に尽力、産地を牽引する経営者である。

・受賞者の特色

（１）高品質につながる徹底した土づくりと栽培管理

40 年間にわたり牛ふん堆肥を施用し、化学肥料や除草剤を一切使用しないことで、土壌微生物の力を最大限に引き出すとともに、独自配合の有機肥料により途切れのない肥効を実現し、糖度 16 度を超える食味を生み出している。

栽培管理においては、過度な葉摘みは控えて、果実への養分供給を高め、冬季の強せん定を避け、枝同士の牽制、樹全体の健全な生育と安定した品質を両立している。独自資材の葉面散布による花芽確保と結実率向上、氷温冷蔵による長期貯蔵、熟練の「目利き」による手作業での選別により、最高品質を担保している。

（２）経営基盤の強化と多角的販売戦略

法人化により、経営の透明化と合理化を図り、顧客の信用が高まった。高級果物店との直接取引を機に、自社ブランドによる高付加価値販売や、多様な直販ルートの開拓を進め、自ら価格を決定できる販売体制を構築したことで販売単価の上昇に繋がった。また、規格外品は高級ブランド加工品として活用することで収益源の多角化を図るとともに、「完全フレックスタイム制」を導入し、家庭状況に合わせて働ける環境を整え、労働力の確保と定着を実現している。

・普及性と今後の発展方向

就農希望者らを受け入れ、これまで 10 名以上の人財を育成した。栽培技術から「自ら価格を決定する」経営哲学までを直接指導し、自立した担い手の育成に尽力している。今後も「土に始まり、土に還る」「味・品質・価格」の原則を堅持し、生産現場の技術を若い世代に伝え、地域計画のキーマンとして、日本一のりんご産地の持続的な発展に貢献したいと考えている。

令和8年度日本農林漁業振興会会長賞受賞者受賞理由概要  
畜産部門

受精卵活用と地域資源循環で高収益を実現する黒毛和種一貫経営

○氏名又は名称 原 廣一・原 奈美

○所 在 地 山梨県北杜市

○出 品 財 経営（肉用牛一貫）

○受 賞 理 由

・地域の概要

北杜市は山梨県北西部に位置し、南アルプス及び八ヶ岳南麓の豊かな自然を背景に耕地面積5,160ha、農業産出額91億円を誇る県内有数の農業地域である。森林が面積の約76%を占め、年間日照時間が長く降水量が少ない内陸性気候が特徴である。畜産では乳用牛20戸、肉用牛30戸などの経営体が所在し、県内有数の畜産地域でもある。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

原廣一氏・原奈美氏は、令和元年に先代から黒毛和種繁殖・肥育一貫経営を継承し、現在は繁殖牛 38 頭、肥育牛 72 頭を飼養している。家畜人工授精所を開設し、受精卵の生産・販売や酪農家の乳牛を活用した受精卵移植を活用しつつ、分娩間隔 12.7 か月、地元ブランド「甲州牛」の認定率 98%以上という優れた実績を上げている。また、自給飼料生産と地域資源の活用による循環型畜産、アニマルウェルフェアへの配慮、緻密な経営管理を実践し、安定した経営を維持している。

・受賞者の特色

（１）酪農家との連携による受精卵移植と子牛生産

家畜人工授精所を開設し、採卵及び受精卵移植を実施している。生産した受精卵を地域の酪農家の乳牛に移植し、子牛を買い戻す仕組みを構築しており、優良肥育素牛の低コスト確保と受精卵販売による収益向上を両立している。

（２）自給飼料と地域資源を活用した循環型畜産

約 4.7ha の採草地で牧草を生産するとともに、自家産水稻の稲わらを活用し、粗飼料自給率 80%以上を達成している。さらに、地域産の稲発酵粗飼料の活用、堆肥と稲わらの交換やもみ殻の牛床利用を通じて地域資源の有効活用を推進することで、地域粗飼料自給率 95%を実現している。

（３）農業簿記を活用した経営管理

農業簿記を活用し、収支や経営データを的確に把握しながら経営管理を行っている。精緻な記帳により経営状況が見える化し、改善につなげている。その結果、資材価格高騰下においても借入金のない健全な財務体質を維持している。

・普及性と今後の発展方向

受精卵移植による酪農家との連携、自給飼料や稲わらを活用した地域資源循環、農業簿記に基づく経営管理、アニマルウェルフェアへの取組は、多くの肉用牛経営に応用可能であり普及性が高い。

令和 8 年度日本農林漁業振興会会長賞受賞者受賞理由概要  
林産部門

地域材をまるごと活かす大径材の製材体制

○氏名又は名称 岸田木材株式会社（代表 岸田 真志）

○所 在 地 富山県氷見市

○出 品 財 技術・ほ場（製材技術）

○受 賞 理 由

・ 地域の概要

氷見市は県の北西部に位置し、市西部から南部にかけて森林や里山が広がっている。豊かな森林資源を背景に木材生産や森林整備といった林業活動が行われており、比較的温暖な気候の下、冬季にも林業を行うことができている。

・ 受賞者の取組の経過と経営の現況

岸田木材（株）は、140 年以上にわたり木材の製材・乾燥・加工・販売を行ってきた木材加工業者である。平成 10 年までロシア材等の輸入材を主に扱ってきたが、原木調達環境の変化にいち早く対応し、輸入材から国産材へ原木の転換を進めた。これにより地域の森林資源を活用した供給体制を強化するとともに、外部環境に左右されにくい事業基盤を構築し、国産材の供給力向上と自社の経営改善の双方につなげている。令和 7 年には原料の 99%が国産材となっている。

・ 受賞者の特色

地元のボカスギを JAS 材として信頼性を高めて安定供給する体制の整備を進めるとともに、大径木に対応するため、元口 60cm の丸太にも対応できるツインバンドソーを導入し、これまで加工が難しかった大径材を効率よく製材できる環境を整えている。また耳摺機（ダブルエッジャー）や大型中温乾燥機等の導入による歩留まり及び品質の向上に加え、目立て作業の内製化を進めて他社からの受注にも対応し、地域の製材業に欠かせない技術の維持に貢献している。

また、建築材、土木用の杭材や型枠材、梱包材、外構材など多様なニーズに応じた木材を生産している。これにより、山から搬出した木を品質や特性に応じて最適な用途へ振り分け、無駄なく活かすことで森林資源の価値を引き出している。

令和 6 年 1 月の能登半島地震では、自社も被害を受けながら、地域の復旧・復興を最優先に考え、地域材を用い、耐震性、断熱性、再利用性に優れる板倉工法を活用した住宅復旧に取り組んだ。

・ 普及性と今後の発展方向

同社は、地元の貴重な森林資源であるボカスギの活用に向け、平成 24 年に同社が中心となり「一般社団法人ひみ里山杉活用協議会」を立ち上げ、地域材のブランド化と利用拡大に貢献している。この協議会は木材の供給や販売だけでなく、地域の森林と暮らしをつなぎ直すことを目的として、林業、製材、建築、行政、教育機関など異なる立場の関係者が連携できる場を設け、地域ぐるみで「使って守る森づくり」を推進してきている。

今後は、JAS 構造材の供給体制の強化や化粧材、板倉工法向け厚板などの高付加価値製品の拡充に取り組むほか、地域の小学校などと連携した工場見学、木工ワークショップや、設計者、工務店、林業関係者向けの製材・乾燥・品質に関する勉強会を定期的を開催するなど、地域全体の知識と技術の底上げを図り、地域材利用を広げていく。

令和8年度日本農林漁業振興会会長賞受賞者受賞理由概要  
水産部門

福島県松川浦産あおさの品質へのこだわりと魅力発信

○氏名又は名称 株式会社 マルリフーズ（代表 稲村 利公）

○所 在 地 福島県相馬市

○出 品 財 産物（水産加工品）

○受 賞 理 由

・地域の概要

福島県相馬市は福島県浜通り北部に位置し、水産業は松川浦漁港（原釜地区）及び松川浦を中心に展開される地域の基幹産業の一つである。相馬沖の好漁場を背景に漁船漁業が営まれているほか、松川浦ではのり類を中心とした養殖業が行われている。特に、松川浦は古くからのり養殖が盛んな地域であり、現在はあおさの生産が行われている。また、松川浦漁港（原釜地区）は、水揚げや流通の拠点として重要な役割を担っている。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

受賞者は、福島第一原発事故による風評被害を受けた松川浦産あおさの価値向上と消費拡大を図るため、地元漁業者及び（株）小田原屋と連携し、出品財の開発に取り組んだ。開発当初は、加工時にあおさの色が黒く変色し、見た目や食感が損なわれる課題があったが、原料や製造工程の見直しを重ね、油とあおさの配合割合を調整するなど試行錯誤を繰り返した結果、あおさ本来の鮮やかな緑色と風味を生かした商品化を実現した。現在は、松川浦産あおさのブランド力向上と販路拡大に取り組みながら、地域資源を活用した付加価値の高い商品づくりを展開している。

・受賞者の特色

受賞者の強みは、原料となるあおさの品質への徹底したこだわりである。漁協から仕入れた生原料について、自社で品質や異物の混入状況に応じた選別を行い、良品のみを乾燥あおさの原料として使用している。さらに、独自の洗浄工程や複数人による異物除去を行うほか、乾燥後にも再度確認を実施するなど品質管理を徹底している。また、品質劣化を防ぐため冷凍保管を行うなど、高品質な製品づくりに努めている。加えて、風評被害を受けた松川浦産あおさにこだわった商品開発を進めることで、その魅力や価値を広く発信し、販売開始から約2年間で販売金額を約7.5倍に伸ばしており、地域ブランド価値の向上と復興に貢献している点に特色がある。

・普及性と今後の発展方向

本取組は、地域の水産資源を活用した付加価値の高い商品を開発し、地域ブランド価値の向上と販路拡大につなげた優良事例である。特に、風評被害を受けた産地において、地元事業者との連携により新たな需要を創出した取組は、他地域における地域資源活用の参考となる。今後は、松川浦産あおさのさらなる認知度向上と需要拡大に加え、地域水産物を活用した新たな商品展開や情報発信を進めることで、地域水産業の持続的な発展と一層の活性化が期待される。

令和 8 年度日本農林漁業振興会会長賞受賞者受賞理由概要  
多角化経営部門

世界を魅了する木頭ゆず ～地域と共に成長する経営～

○氏名又は名称 株式会社 黄金の村（代表 藤田 恭嗣）

○所 在 地 徳島県那賀郡那賀町

○出 品 財 経営（木頭ゆず）

○受 賞 理 由

・地域の概要

徳島県那賀町木頭地区は、剣山南麓に広がる標高300～1000mの中山間地域で、「四国のチベット」とも呼ばれる。那賀川源流の良質な水環境を有し、全国有数の高品質な「木頭ゆず」の産地として知られる。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

（株）黄金の村は、平成 25 年に藤田氏が設立し、ユズの生産・集荷・加工・販売を一体的に行う多角化経営を展開している。創業時 1ha だった園地を 5 ha に拡大し、果汁工場や貯蔵施設を整備しており、令和 7 年には自社生産 48t に加え、地域の約 150 戸の農家から 198t のユズを集荷した。輸出や精油事業の拡大により、大幅な収益増加となり、地域経済を牽引している。

・受賞者の特色

（１）生産・加工による高付加価値化

木頭ゆずに特化した 6 次産業化を推進し、生産から集荷・加工・販売までを一貫して展開しており、果汁・加工品製造に加え、搾汁後の果皮や種子から精油や化粧品原料を製造することで、未利用資源を活用した高付加価値化を実現している。

（２）海外展開と地域連携

英国や米国など 12 か国へ輸出を展開し、木頭ゆずの国際的評価向上と販売単価の上昇を実現した。また、約 150 戸の地域農家からユズを集荷し、収益を地域へ還元する仕組みを構築することで、産地の維持・発展と地域活性化に貢献している。

（３）女性の活躍

収穫作業に加え、出荷・加工工程の多くを地域の女性人材が担っている。地域内の事業者で培われた経理経験を有する女性を経理マネージャーとして登用し、さらに、令和 7 年 12 月からは加工場の工場長に女性が就任し、業務の標準化や生産体制の強化を担っている。

・普及性と今後の発展方向

令和 12 年までに県内外で 100ha 規模の定植、令和 12 年以降は毎年 100ha ずつの農地拡大を目指し、加工拠点整備や広域流通網の構築にも取り組む。また、新規就農者向け研修制度や全量買取保証制度を構築し、担い手育成を推進する。住環境整備やコミュニティ形成にも力を入れ、「働く場」と「暮らす場」を両立した地域づくりを通じて、日本各地の限界集落の再生モデルとなることを目指している。

令和8年度日本農林漁業振興会会長賞受賞者受賞理由概要  
むらづくり部門

中山間地域の未来を拓く宮地岳の挑戦

○集団等の名称 農事組合法人 宮地岳営農組合（代表 田中 大地）

○所 在 地 熊本県天草市

○受 賞 理 由

・地域の沿革と概要

宮地岳町は、熊本県天草市の中山間地域に位置し、水稻を中心とした農業が営まれている地域である。約300年続く例大祭が受け継がれるなど地域の結びつきが強い一方、高齢化や人口減少、担い手不足が進んでいる。こうした中、地域全体で農地と農業を守るため、平成12年に宮地岳営農組合が設立され、その後の農事組合法人化を経て、地域ぐるみのむらづくり活動が展開されている。

・むらづくり組織の概要

農事組合法人宮地岳営農組合は、「宮地岳町全体の農業と農地を守り、農業所得を向上させること」と「地域づくりと活性化への貢献」を柱に活動している。組合員142名が参加し、地区振興会や道の駅宮地岳かかしの里、農村RMO組織等と連携しながら、農業振興と地域活性化を一体的に推進している。また、近年は若手代表理事の就任など世代交代も進められている。

・むらづくりの取組概要

（１）農業生産面

- ① 地域内の農地集積や農作業受託を進め、約80haの農地を維持管理することで耕作放棄地の発生防止に取り組んでいる。
- ② 菜の花プロジェクトを推進し、景観形成に加え、菜種油の製造・販売や油粕の活用など環境保全型農業に取り組んでいる。また、宮地岳産の米や米焼酎など加工品のブランド化を進め、地域農産物の付加価値向上を図っている。
- ③ ドローンや営農管理システム等のスマート農業技術を導入し、省力化と生産性向上に取り組んでいる。

（２）生活・環境整備面

- ① 地域住民が制作した「かかし」を活用した「宮地岳かかしまつり」を開催し、現在では年間3万人規模が訪れる地域を代表する交流イベントへ発展している。
- ② 廃校となった旧宮地岳小学校を活用した「道の駅宮地岳かかしの里」と連携し、農産物販売や農業体験、農家民泊等を通じて交流人口の拡大と地域活性化に取り組んでいる。
- ③ 農村RMOの取組を通じて地域資源の活用や生活支援を進めるなど、持続可能な地域づくりを推進している。

・他地域への普及性と今後の発展方向

本取組は、営農組合を核として農地保全、農産物のブランド化、交流人口の拡大、生活支援を一体的に推進している点に特徴がある。また、道の駅やかかしまつりを活用した地域活性化やスマート農業など、新たな取組にも積極的に挑戦している。地域全体が連携して持続可能な地域づくりを進める本取組は、中山間地域におけるむらづくりのモデル事例になり得るものである。

令和 8 年度内閣総理大臣賞受賞者受賞理由概要  
女性の活躍

女性経営者による地域全体を育てる農園経営と人材育成の実現

○氏名又は名称 乾 裕佳

○所 在 地 大阪府富田林市

○出 品 財 女性の活躍

○受 賞 理 由

・地域の概要

富田林市は大阪府南東部に位置し、丘陵地と石川流域の平坦部からなる大都市近郊のベッドタウンである。瀬戸内気候の温暖な地域で、約3,300のため池を活かし、628haの耕地で都市近郊型農業が展開されており、なす、いちご、GI登録の「富田林の海老芋」などが産出され、令和5年の農業産出額は17億円に上る。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

乾氏は平成8年就農後、平成26年に乾農園4代目を継承した。作業のマニュアル化やJGAP取得で標準化を進め、千両なすでGABA認証を取得することで農園経営の安定化を図ってきた。また、「富田林の海老芋」のGI登録に向けて尽力する等、地域農業の活性化や人材育成に尽力している。

・受賞者の特色

(1) 従業員を思いやる農園経営理念と人材育成

外国人の採用では、家庭訪問により親との信頼関係の構築、JGAP取得による作業の見える化で育成と定着を促した。日本人従業員には中抜け勤務など柔軟な働き方を実現し、経営管理業務や研修機会を与えるなど人材の育成と定着を図っている。

(2) 経営の見える化・デジタル活用

乾氏は、作業記録のExcel整理やJGAP取得で圃場ごとの作業手順等を標準化し、外国語動画で情報共有するとともに、営農管理アプリを早期導入、作物ごとの生産性や労働時間、収支状況を「見える化」し、人員配置や経営判断に活用している。

(3) 地域全体を育てる農園経営

乾氏は自園のみならず地域農業全体の維持・発展に取り組む。海老芋のGI登録では栽培技術をマニュアル化し地域で共有することで新規参入を促進、販売単価の向上と作付面積の拡大を実現した。また、外国人雇用や営農管理アプリを地域へ普及させた。

(4) 地域の女性農業者としての活躍と貢献

乾氏は経営と地域活動の両面で活躍し、後進育成や女性活躍の環境づくりに尽力している。また、指導農業者として農業塾で100名超を育成し、女性部会で女性農業者同士のネットワーク形成を促進している。

・普及性と今後の発展方向

乾氏は人材の確保と定着を重視しており、従業員へ経営管理を任せたり、新入社員に新作物を担当させたりするなど、自身の経営の持続性、発展性を確保するとともに、農業塾での新規就農者育成や地域内でのハウス修理受託の新会社設立を通じ、地域全体で労働力を確保することで、持続可能な産地形成を目指している。

令和 8 年度日本農林漁業振興会会長賞受賞者受賞理由概要  
女性の活躍

女性ならではの視点を活かした農園経営で更なる地域振興を目指す

○氏名又は名称 株式会社 フルトリエ（代表 中村 美紗）

○所 在 地 福岡県久留米市

○出 品 財 女性の活躍

○受 賞 理 由

・ 地域の概要

久留米市は福岡県南部に位置し、九州最長の筑後川が流れる。総面積約 230 km<sup>2</sup>の 4 割が耕地で、大消費地福岡市にも近い。水稻、野菜、花き、果樹等が栽培され、令和 5 年の農業産出額 310 億円は県内 1 位となっている。

・ 受賞者の取組の経過と経営の現況

中村氏は 100 年以上続く梨農家を基盤に、ぶどう・いちご栽培や観光農園、直売所、カフェを組み合わせた多角経営を展開し、栽培面積 335a で長期リレー生産と周年雇用を実現している。令和 4 年に法人化し、従業員 21 名中 15 名が女性であり、外国人材やアルバイトアプリも活用している。

・ 受賞者の特色

（１）誰もが楽しめる観光農園

季節ごとにフルーツ狩りを楽しめる観光農園を整備し、ジョイント V 字栽培や高設栽培、園内のバリアフリー化で誰もが収穫を楽しめる環境を実現した。旅行会社と連携し障がい者やインバウンド客も受け入れる。直売所やカフェでは樹上完熟果実やスイーツを提供し、SNS で発信しており、年間 4 万人以上が来園している。

（２）生き生きと働ける観光農園

スタッフの労働環境改善に積極的に取り組む。子育て世代の女性が多いことから、補助事業を活用し利用料無料の託児スペースを整備した。就業規則や柔軟な休暇制度を導入し、LINE 連絡で就業時間を容易に変更できるなど、働きやすい環境を整えている。部門を越えて協力し合う風土も醸成され、法人化以降の離職者は 1 名に留まる。

（３）地域に留まらない貢献

中村氏は後継者のいない地域の果樹園を引き取るなど、次代を担う経営主となっている。JA 青年部や「アトツギ女子会」で取組を共有し、国や市の審議会委員等も務めるなど地域への貢献度が高い。母校等での講演や独立希望の後継者の受入れを通じ、若手育成にも力を入れ、世代を通じて地域農業を牽引している。

・ 普及性と今後の発展方向

中村氏は「フルトリエ」の栽培面積と事業の拡大を視野に、カフェやバリアフリー化、民泊サービス等で新たな果樹経営モデルを切り拓く。幹部候補採用や人事評価制度導入で人材育成を進め、高温障害や熱中症への対策も強化する。輸出でなく、農園拡大や近隣農家や市との連携により市内での消費を促す着地型観光で、地域経済への波及を目指している。